

潜入!! 工事現場 🔍

途ちゅアフター

第27回 >>> 旧吉田家住宅主屋 かやぶき屋根ふき替え

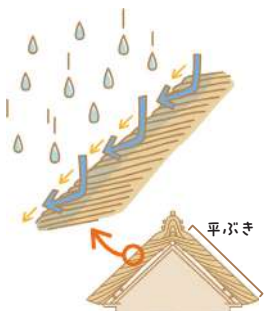


トチュー調査員

国指定重要文化財「旧吉田家住宅」の
工事現場を訪ねてきたよ!

今では珍しくなった日本の伝統的な
かやぶき屋根には、職人技が詰まった
「伝統建築の世界」が広がっていました

旧吉田家住宅の建物はおおむね江戸時代のもので、そのほとんどが当時の姿のまま残っています。前回の屋根のふき替えは昭和60(1985)年ごろ。それから部分的な補修を重ねてきましたが、近ごろはかやの乱れや雨漏りが目立ち、40年ぶりに全面的な修繕を行うことになりました。今年11月末まで続く工事は、屋根の軒先から順番に少しずつ行うスタイル。てっぺんまで積み上げていく作業は全て職人さんの手仕事で、かやを束にして一つ一つ丁寧に積み上げる様子が熟練の技が光ります。



かやぶき屋根が雨漏りしない秘密は、かやを重ねる勾配です。平ぶき部分の内側を高く、外側が低くなるように傾きをつけて、染み込んだ雨水を効率よく外へ流し出しています。また、屋根の勾配は一般的に45度前後であることが多く、岐阜県の白川郷のような雪の多い地域では、さらに急な勾配になっている建物もあります。

トチュー調査員の もっと知りたい!

Q1 「かや」って何?

A 屋根をふく草の総称を「かや」といいます。今回の修理で使う種類は、ススキ、オギ、シマガヤ、ヨシなどです。平ぶきに使用する新しいススキの束はおよそ5,500束。1束は高さ1.5~2メートル・直径22センチメートルほどです



Q2 かやぶき屋根の工事は見学できるの?

A 見学会を開催します。詳しくは本誌11ページをご覧ください。また、工事現場以外は公開しています。開園日などは市のホームページをご覧ください



市ホームページ



江戸時代にSDGsの
先駆けが?!



屋根の厚さは1.4メートルもあり、一般的なかやぶき屋根のおよそ2倍。ふかふかの質感は、屋根というより巨大なクッションのようです。



ふき替え前の旧吉田家住宅主屋

また、通気性や断熱性に優れていて夏は涼しく冬は暖かいのも特徴の一つ。自然素材なので環境への負荷も少なく、使い終えたかやは土に返り肥料になります。

今回使われるかやのうち、半数以上は以前使われていたものを再利用するそうです。およそ100年前のかやが、今も現役としてよみがえるなんて、ちょっとロマンを感じます。



化粧竹

さらに注目なのが軒下。かやの種類を変えて、しな模様を造り、軒の高さの違いを美しい曲線で表現しています。そこにあしらわれた化粧竹も相まって、江戸時代の人たちのおしゃれ心を直接感じることができます。

まるで江戸時代にタイムスリップしたようなこの場所。11月末に工事が終わり、ひときわ美しく生まれ変わった姿を見るのが楽しみです。文化課の皆さん、ご協力ありがとうございました!